

2023年度 司法福祉研修会 自主上映会

映画「プリズン・サークル」

～対談～

私たちは「地域共生社会」「多様性の尊重」を
どう理解すればよいのか

平成21年度、厚生労働省と法務省の共同事業として、罪を犯した障がい者や高齢者の社会復帰支援となる「地域生活定着支援事業」が開始。新潟県地域生活定着支援センターも今年で12年目となった。

この間「再犯防止推進法」が施行され、新潟県も令和2年に「再犯防止推進計画」が策定されました。県内の市町村福祉計画も再犯防止推進計画が盛り込まれる中で策定が進んでいる。

罪を犯すこと背景には様々な要因や生きづらさが複雑に絡み合っている。罪を犯した者がどのように刑務所で罪と向き合っているのか、出所後の彼らをどう地域で迎え入れればよいのか。

映画・新潟県の現状・地域生活定着支援センターの実践を通し、「地域共生社会」「多様性の尊重」の意味を改めて見つめ直すことで、地域の理解が深まり、偏見や排除のないよりよい地域づくりのヒントになればよいと思っております。



(C)2019 Kaori Sakagami

PRISON プリズン・サークル CIRCLE

2023年10月20日（金）参加費500円

12:30～16:30 12時開場 定員150名

燕三条市地場産業振興センター（新潟県三条市須頃1丁目17番地）
リサーチコア7階マルチメディアホール

上映会 12:40～14:40

課題提起 / 実践報告 14:55～16:30

丸田秋男 新潟医療福祉大学前副学長

新潟県再犯防止（社会復帰）推進会議座長

歴代3センター長が語る12年間のあゆみ

國兼明嗣 新潟医療福祉大学

本多崇人 社会福祉法人吉田福祉会

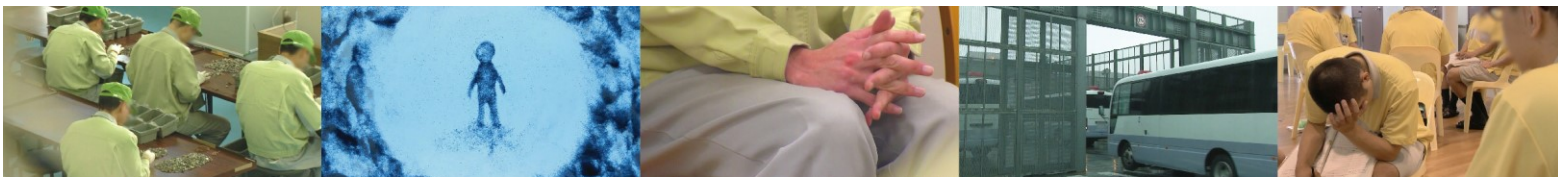
丸田明久 新潟県地域生活定着支援センター

主催

公益社団法人新潟県社会福祉士会
新潟県地域生活定着支援センター
（新潟県委託事業）



申込はQRコードよりお願い致します。定員に
達次第締め切らせていただきます→



「罪」と「罰」について
多くを知らない。
けれど私たちは、この国の
厳罰化を叫ぶ声——
過熱する犯罪報道、

「島根あさひ社会復帰促進センター」は、官民協働の新しい刑務所。警備や職業訓練などを民間が担い、ドアの施錠や食事の搬送は自動化され、ICタグとCCTVカメラが受刑者を監視する。しかし、その真の新しさは、受刑者同士の対話をベースに犯罪の原因を探り、更生を促す「TC (Therapeutic Community = 回復共同体)」というプログラムを日本で唯一導入している点にある。なぜ自分は今ここにいるのか、いかにして償うのか？ 彼らが向き合うのは、犯した罪だけではない。幼い頃に経験した貧困、いじめ、虐待、差別などの記憶。痛み、悲しみ、恥辱や怒りといった感情。そして、それらを表現する言葉を獲得していく…。

DIRECTED BY KAORI SAKAGAMI

PRISON CIRCLE

監督は、『ライフアズ 終身刑を超えて』『トークバック 沈黙を破る女たち』など、米国の受刑者を取材し続けてきた坂上香。日本初となる刑務所内の長期撮影には、大きな壁が立ちはだかった。取材許可が降りるまでに要した時間は、実に6年。この塙の中のプログラムに2年間密着したカメラは、窃盗や詐欺、強盗傷人、傷害致死などで服役する4人の若者たちが、新たな価値観や生き方を身につけていく姿を克明に描き出していく。

処罰から回復へ
今、日本の刑務所が
変わろうとしている

www.prison-circle.com prison_circle fb.com/prison.circle

(C)2019 Kaori Sakagami

問い合わせ
新潟県地域生活定着
支援センター
担当:平栗・那須野
☎025-281-6010
✉teichakushien@utopia.
ocn.ne.jp

2023年10月20日 (金) 12:30~16:30 (12時開場)

上映会 12:40~14:40 参加費500円
課題提起 / 実践報告 14:55~16:30

申込はこちらから↓

丸田秋男 新潟医療福祉大学前副学長
新潟県再犯防止(社会復帰)推進会議座長
新潟県地域生活定着支援センター歴代センター長
國兼明嗣 新潟医療福祉大学
本多崇人 社会福祉法人吉田福祉会
丸田明久 新潟県地域生活定着支援センター

